



～子どもたちの幸せな人生を考える仕事～

令和4年度 第1号

《発行日》2022/ 6/ 6

《発行者》にじいろ委員会

中畠 由佳

大樹高校

『高等学校における通級による指導』がわかる

障害者の権利に関する条約で提唱された「**インクルーシブ教育システム**」の理念を踏まえ、平成30年度より、**全ての高等学校で「通級による指導」が制度化**されました。

現在、小・中学校で通級による指導を受ける児童生徒数は年々増加の傾向にありますが、障がい（または診断のつかない困り感）のある生徒の中学卒業後の進路は、主として高等学校の通常学級が特別支援学校高等部に限られています。やはり、多くの高等学校では個に応じた適切な対応が難しく、生徒自身も教員も難しさを抱えながら3年間を過ごすような状況も少なくないことが実情です。

大樹高校は、平成27～29年度の3年間、文部科学省研究指定事業「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」の研究指定校として取り組みを進めてきた先進校です。高等学校においても、個々の能力に応じた適切な教育が継続・実施できるよう学びの環境整備が求められる中、様々な試行錯誤を経て「**放課後活動**」（通級による指導の大樹高校バージョン）がスタートしました。

◆高等学校における通級による指導 Q&A

Q1：インクルーシブ教育とは？

A1：障害のある子ども、障害のない子どもがともに学ぶ教育システムです。
個々が必要とする合理的配慮の下、望めば誰もが地域の学校で学習できることを目的としています。

Q2：通級による指導って何？

A2：障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服することを目的とした指導です。大部分の授業を通常の学級で受けながら、障がいに応じた指導を通級指導教室で受けることができます。

Q3：対象となる生徒は？

A3：原則として、言語障がい、自閉スペクトラム症、情緒障がい、弱視、難聴、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなど（知的障がいを除く）を有する生徒が対象とされていますが、大樹高校の場合は、困り感があっても診断を受けていない生徒がほとんどです。そのため、診断の有無に関わらず、本人・保護者・学校の3者から合意が得られた場合に指導対象としています。

Q4：どのような学習をするの？

A4：特別支援学校学習指導要領の「**自立活動**」を行います。「**各教科の補習**」ではありません。

Q5：自立活動って何？

A5：大樹高校では、主に、円滑な人間関係を築くために必要なスキル（コミュニケーションや相手の心情の理解など）や、読み書きに必要な認知機能を高めるトレーニングを行っています。
個々の発達や課題等に応じたオーダーメイドの学習であり、本人の希望や意欲を大切にしています。

Q6：活動日はいつ？

A6：毎週木曜日、放課後（15:40～16:40）を基本としています。

「通級による指導に係る修得単位数は、年間7単位を超えない範囲で卒業認定単位に含めることができる」とされていますが、大樹高校では単位認定をしていないため学習頻度に制約はありません。部活動や家庭都合、会議等に応じて活動日を変更するなど、柔軟に対応しています。

◆放課後活動を通して高めたい力（一例）

- 生活力や意欲を高め、1人でできることを増やす。
- 困ったときに、自ら援助を求める。
- 友人との対等な立場としての関わり方。
- スムーズな読字、書字の乱れの改善。
- 相手の気持ちや、場の雰囲気を感じて対応する。
- 手指の巧緻性を高める。

など

※ 特別支援学校学習指導要領『自立活動の内容』（6区分27項目）に従って、高めたい力を精選し、個々に応じた具体的な指導内容を設定していきます。

◆知能検査（WISC または WAIS）から得られる支援のヒント

WISC（または WAIS）検査によって、「言語理解」「知覚推理」「ワーキングメモリー」「処理速度」の4つの指標とIQ（知能指数）を数値化し、得意な部分と苦手な部分を明らかにします。これにより、より良い支援の手がかりを得ることができます。

▶**言語理解**：口頭での指示や説明を理解すること、言葉での説明や会話によるコミュニケーション。

※合理的配慮～ 口頭だけでなく、メモで渡したり、図やイラストで説明したりするなど。

▶**知覚推理**：図や地図を理解することや、物事の見通しを立てる力。

※合理的配慮～ 言葉での説明や、活動の目的と工程を自分でリスト化させるなど。

▶**ワーキングメモリー**：頭のなかに情報を一時的に保持しながら、物事を処理する力。

対象に注意を向け続けること、耳から入る情報の処理に困難があるため、会話や指示の内容を覚えることに難しさがある。【例】電話をしながらメモを取るなど。

※合理的配慮～ 情報をインプットする時間とメモを取る時間を分けるなど。

▶**処理速度**：視覚情報の素早い処理や、その情報に基づいた作業を時間内に終わらせる力。

※合理的配慮～ 作業をする際には、こまめに休憩を取る、作業を区切るなどで集中力をあげるなど、作業量と時間を調整する。